

エアゾール缶等による火災・事故をなくそう

エアゾール缶等に関わる火災及び事故の発生状況

エアゾール缶及び簡易型ガスこんろ燃料ボンベ（以下「エアゾール缶等」という。）による火災は過去10年間で1,569件発生しています。平成21年に207件の最多件数を記録しましたが、平成22年から年々減少し、平成24年からは、ほぼ横ばいで推移しています（図1）。

平成27年中のエアゾール缶等による火災原因で最も多いのは、最後まで中身を使い切らずに捨てられたエアゾール缶等の残存ガスが清掃車の荷箱内で噴出し、ごみの圧縮時に発生した火花に引火して火災となるものです。これは41件発生しており、過去10年間で863件となります（表1）。

また、この火災による過去10年間の死傷者の合計は574人です。死者が2人、負傷者が572人発生しています。このうち中等症（生命の危険はないが入院を要するもの）以上が4割以上を占め、顔や気道などにやけどを負っています（表2、表3）。

（※「事故」とは、火災に至らず、やけど等を負ったものです。）

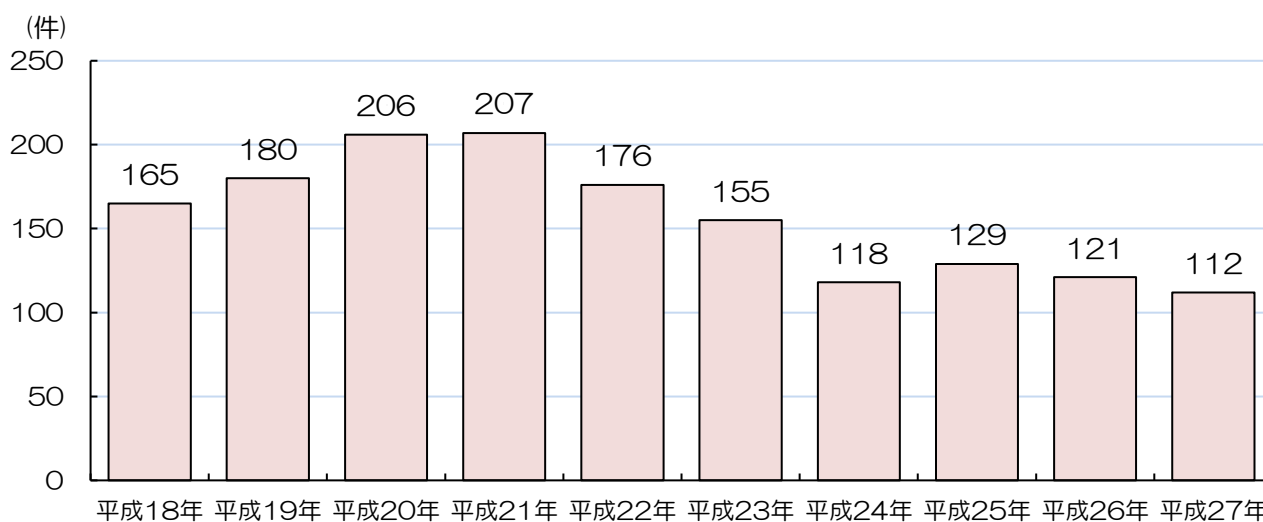


図1 エアゾール缶等による火災発生件数の推移（過去10年間）

火災発生要因	平成 18年	平成 19年	平成 20年	平成 21年	平成 22年	平成 23年	平成 24年	平成 25年	平成 26年	平成 27年	合計
清掃車	113	119	134	127	104	77	52	51	45	41	863
穴あけ	14	17	26	21	23	23	26	30	29	25	234
その他(廃棄)	3	2	6	13	15	11	6	8	3	8	75
厨房器具近接	13	7	8	16	6	3	7	7	10	2	79
暖房器具近接	6	9	9	5	6	7	6	8	5	5	66
装着不良	1	1	5	3	3	9	4	7	8	5	46
その他 (取扱不適含む)	15	25	18	22	19	25	17	18	21	26	206
合計	165	180	206	207	176	155	118	129	121	112	1,569

表1 エアゾール缶等による過去10年間の火災発生状況

年別	火災 件数 (件)	負傷者数(人)					死 亡	中 等 症 以 上 (死亡を除く) (人)	中 等 症 以 上 の 割 合 (死亡を除く) (%)
		合 計	軽 症	中 等 症	重 症	重 篤			
平成18年	165	39	22	14	3	-	17	43.6	
平成19年	180	65	38	18	9	-	27	41.5	
平成20年	206	74	46	20	6	2	28	37.8	
平成21年	207	53	32	15	5	1	21	39.6	
平成22年	176	64	38	19	6	1	26	40.6	
平成23年	155	62	38	14	9	1	24	38.7	
平成24年	118	41	17	16	8	-	24	58.5	
平成25年	129	55	29	17	6	3	26	47.3	
平成26年	121	60	31	21	7	1	29	48.3	
平成27年	112	59	35	17	6	1	24	40.7	
合計	1,569	572	326	171	65	10	246	43.0	

軽 症・・・軽易で入院を要しないもの
 中等症・・・生命の危険はないが入院を要するもの
 重 症・・・生命の危険が強いと認められたもの
 重 篤・・・生命の危険が切迫しているもの

表2 エアゾール缶等による火災の死傷者発生状況(過去10年間)

受 傷 部 位	熱 (火) 傷	気 道 炎	挫 傷 (創)	切 創	一 酸 化 炭 素 中 毒	打 撲 傷	擦 過 傷 (創)	咽 喉 炎	骨 折	そ の 他	合 計
顔 部	185	-	1	1	-	-	-	-	-	3	190
気 道	73	11	-	-	-	-	-	2	-	6	92
手 部	61	-	3	5	-	-	3	-	-	1	73
前 腕 部	59	-	-	-	-	-	-	-	-	1	60
全 身	27	-	-	-	4	-	-	-	-	4	35
上 腕 部	32	-	-	-	-	1	-	-	-	-	33
上 半 身	24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	24
頭 部	13	-	-	-	-	2	-	-	-	2	17
そ の 他	37	-	6	2	-	1	-	-	2	-	48
合 計	511	11	10	8	4	4	3	2	2	17	572

表3 エアゾール缶等による火災の受傷部位別負傷者数（過去10年間合計）

主な原因	平成 18 年	平成 19 年	平成 20 年	平成 21 年	平成 22 年	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	合計	割合 (%)
清掃車	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.0%
穴あけ	9	7	7	6	8	2	10	1	3	-	53	29.1%
その他（廃棄）	1	-	1	-	1	-	-	2	2	1	8	4.4%
厨房器具近接	4	5	6	2	1	3	2	3	1	-	27	14.8%
暖房器具近接	-	2	-	6	-	-	-	-	-	-	8	4.4%
装着不良	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	2	1.1%
その他 (取扱不適含む)	1	8	26	17	9	4	6	4	6	3	84	46.2%
事故合計（件）	15	22	40	31	19	9	20	10	12	4	182	100.0%

表4 エアゾール缶等による火災の主な原因別事故件数（過去10年間）

近年発生したエアゾール缶等に起因する火災・事件事例



- 事例 1 (火災)** 石油ファンヒータの温風吹き出し口付近に、エアゾール缶を置いていたため、エアゾール缶が過熱されて破裂し、噴出した可燃性ガスに石油ファンヒータの炎が引火し出火したもの。(建物半焼)
(平成27年12月 50歳代女性 中等症、他にけが人5名)
- 事例 2 (火災)** カセットこんろの燃料ボンベを交換した際、本体のガイド部と燃料ボンベの切り込み部が合っていないことに気付かないで装着したため、燃料ガスが漏れ、点火時の火花でガスに引火し出火したものの。(建物ぼや)
(平成27年1月 80歳代男性 中等症)
- 事例 3 (火災)** 台所のガステーブルの付近で調理をしていたところ、エアゾール缶を廃棄するため缶切りで穴を開けた際、エアゾール缶から噴出した可燃性ガスにガステーブルの炎が引火し、出火したものの。(建物ぼや)
(平成27年6月 40歳代女性 軽症)
- 事例 4 (事故)** 台所で洗浄用スプレーを使用中、給湯器の炎に引火し、顔面、前腕に火傷を負ったもの。
(平成27年6月 40歳代男性 中等症)
- 事例 5 (事故)** 飲食店の厨房内でネズミを駆除するため、殺虫剤にライターの火をつけて引火させていたところ、火の勢いが強く床から跳ね返った火炎により、顔面に火傷を負ったもの。
(平成27年8月 20歳代男性 軽症)
- 事例 6 (事故)** 消臭剤スプレーを廃棄するため台所でスプレー缶のガス抜きを実施した後、家族がガステーブルを点火した瞬間に炎が一瞬上がり両腕に火傷を負ったもの。
(平成27年11月 70歳代女性 軽症)

カセットボンベ・エアゾール缶の火災・事故を防ぐために

- ① エアゾール缶等を廃棄する場合は、必ず中身を使い切り、各区市町村が指定するごみの分別を守って捨てる。
- ② やむを得ず使い切らずに捨てる時には、火気のない通気性の良い屋外で残存ガスがなくなるまで噴射し廃棄する。
- ③ エアゾール缶には、LPG などの可燃性ガスが噴射剤として使われている製品が多いので、使用前に必ず製品に記載されている注意書きを確認する。
(エアゾール製品は、本来の用途以外に使用しない。)
- ④ エアゾール缶等は、厨房器具や暖房器具付近の高温となる場所や、直射日光と湿気を避けて保管し、厨房器具や暖房器具等の付近では使用しない。
- ⑤ カセットボンベは、カセットこんろ本体に正しく装着されていることを確認してから使用する。
- ⑥ カセットこんろを複数並べて鉄板をのせたり、カセットボンベカバーを覆うような大きな鍋等の使用や、練炭等の炭おこしは、燃料ボンベが過熱され、破裂する危険があるので絶対に行わない。